



令和8年度 国立市立学校 教員公募

「自分も、みんなも、いっしょに幸せになろう」
～ 教員の疲弊が叫ばれる今だからこそ、これが国立市の出発点です～

令和8年2月改定の「国立市教育大綱」。教員の長時間労働や負担増が社会問題化する中、私たちが目指す「みんな」には、子どもたちだけでなく、学校で教え、支える「教職員のあなた」も含まれています。

国立市が目指すのは、子ども自身の内側から湧き出る「好き」や「知りたい」という気持ちを大切に、自発的に学ぼうとする力を応援する教育です。先生自身が心にゆとりを持ち、子どもたちと共に学びを創り上げる新しい教育へ前向きに挑戦できるよう、市を挙げて環境整備していきます。あなたが本当にやりたかった教育を、ここ国立市で実践してみませんか。

新しい国立市教育大綱が掲げる「3つの大切にすること」

- 「好き」や「知りたい」を育み、一生の力に
子どもの「好き」や「知りたい」という主体性を尊重し、それを応援する先生の挑戦を後押しします
- 「ちがい」を掛け合わせて共に生きる
一人ひとりの特性や考え方の「ちがい」を認め合い、一人一人がその子らしく「ここにいていいんだ」と心から安心して過ごせる「包摂性の高い」学級づくりをみんなで進めます
- 学校・家庭・地域の絆で支え合う
新しい教育への挑戦に、不安はつきものです。先生が一人で抱え込まないよう、コンパクトなまちの強みを活かし、チームで最適な学びを届ける体制であなたを守ります

なぜ、国立市なのか？ ～「教育の土壌」と「働きやすさ」～

- 「超コンパクトシティ」が生み出す、通勤・移動のしやすさ
全国で4番目に小さな市(面積8.15km²)の中に、JR中央線とJR南武線の3駅があり、多方面からのアクセスが抜群です。地形も平坦なため通勤も快適。市内の自転車移動もスムーズで、合同会議や研修時の移動時間が短く済むことは、先生の「時間と心のゆとり」に直結します
- 「文教都市」としての豊かな教育環境と、大学とのネットワーク
一橋大学や東京女子体育大学といった市内大学と「包括連携協定」を締結しています。大学の専門的な知見を教育実践に活かしたり、学生のサポートを学校現場に繋げたりと、地域のアカデミックな資源と教育を大切にする市民の土壌が、先生の挑戦を力強く支える基盤となっています
- 「一人一人がその子らしくいられる教育」の最前線
長年、多様な子どもたちがそのままの姿で共に学ぶ環境づくりに向き合ってきた蓄積があります。これからの時代のすべての教員に求められる「個性を尊重し合う学級経営」の専門性を、ここ国立市で着実に磨くことができます

「教員の働き方」が問われる今、国立市が実践する教育環境整備

世間で問題視されている教員の過酷な労働環境。理念を語るだけでなく、国立市は「誰が、どうやって負担を減らすのか」という具体的な仕組みと独自の大規模な人員配置で、この社会課題に正面から向き合っています。

さらに、これらは現時点の取組みに留まりません。「国立市立学校における働き方改革推進実施計画」に基づき、今後も現場の声を反映しながら、歩みを止めることなくさらなる改善を進めていきます。

先生のお悩み①：多様なニーズへの対応を、担任一人で抱え込んでしまう…

→【国立市はこうして寄り添います】学級運営を直接助ける「3つの心強いサポーター」

「一人一人がその子らしくいられる学級」の実現を、担任一人に背負わせません。国立市独自の専門的なスタッフ陣が、あなたの教室を直接バックアップします。

●スマイリースタッフ(43名配置)

通常学級等に配置。配慮が必要な児童・生徒や不登校傾向の子どもたちに対し、担任と密に連携してきめ細やかな指導・支援を行います。

●スマイルアシスタント(10名配置)

多様な子どもたちが、安全に学校生活を送るための環境づくりをきめ細やかにサポートします。

●スクールライフサポーター(年間12,680時間配置)

いじめや不登校の未然防止から、個別支援、身体介助、一時的な学級運営の補助(教員の離席時や学級が不安定な際のサポート)まで柔軟に対応します。

先生のお悩み②：膨大な事務作業で、授業準備や子どもと向き合う時間が取れない…

→【国立市はこうして支えます】「分業」と「デジタル化」で本来の仕事を取り戻す

●スクール・サポート・スタッフ(全11校に完全配置・12名)

通常学級等に配置。配慮が必要な児童・生徒や不登校傾向の子どもたちに対し、担任と密に連携してきめ細やかな指導・支援を行います。

●副校長補佐(全11校に完全配置・11名)

副校長の業務を支援し、学校全体の運営を円滑にすることで、現場の混乱を防ぎます。

●デジタル採点システム(中学校)

膨大で負担の大きかった採点・集計業務の時間を、システム導入により大幅にカットします。

●ICT支援員(3名配置)

授業での端末活用や、ICTを取り入れた授業づくりを専門人材がサポートします。

先生のお悩み③：際限のない保護者対応や、休日を削る部活動の負担…

→【国立市からのサポート】勤務時間を守るシステムと、専門人材への移行

●自動音声対応システム&連絡手段のデジタル化(すぐーる)

学校の電話対応時間を限定し、退勤後の時間を守ります。また、欠席連絡やプリント配布等の手間を削減します。

●教員一人ひとりに携帯電話を貸与

広い校内や校外学習での連絡を容易にし、私用スマホを使わせない環境を整えています。

●部活動の外部化

部活動指導員(3名)、外部指導員(各校850回)を配置し、中学校の部活動を専門人材が担うことで、指導の充実と働き方改革を両立します。また、令和7年度に剣道部の休日の活動の一部を地域移行したことに続き、令和8年度は、陸上競技部とソフトテニス部も同様に地域移行しています。

●「夏季休暇促進週間」の徹底

毎年8月に学校閉庁期間をしっかりと設定し、気兼ねなくリフレッシュできる期間を確保します。



国立市教育委員会

